

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 26 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22330209

研究課題名(和文) コメニウスの中心思想の総合的研究～『光の道』を中心に～

研究課題名(英文) Comprehensive Study of Comenius' Central Thought: Focusing on his Via Lucis

研究代表者

加藤 守通 (Kato, Morimichi)

上智大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：40214407

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,100,000円、(間接経費) 1,830,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、コメニウス中期の思想を代表する主著『光の道』に焦点を当て、彼の教育思想の多義的・重層的な性格を明らかにすることであった。成果は以下の通りである。

- (1)教育思想史のみならず科学史における基本文献である『光の道』の本邦初訳を完成した。(2) コメニウスと新プラトン主義およびルネサンス思想との関連を明らかにした。
- (3)コメニウス教育思想が学校教育を超えた生涯学習論へと展開していく過程を明らかにした。(4)『光の道』啓蒙思想との関連を明らかにした。(5) オランダ、チェコなどでの調査や発表を通じてUwe Voigt教授をはじめとした世界的なコメニウス研究者との関係を確立した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research was to throw light on one of Comenius' main works, Via Lucis, and to clarify its multi-layered characteristics. Here is a short summary of our achievement:

- 1)We made the first complete translation of Via Lucis in Japanese. 2)We clarified the role Neoplatonism and Renaissance thought had upon the formation of Via Lucis. 3)We investigated the process how the educational thought of Comenius developed itself into the theory of life long learning. 4)We made clear the relationship between Via Lucis and Enlightenment. 5)Through various academic visits of countries such as Holland and the Czech Republic, we established academic contact and collaboration with Comenius scholars, such as Uwe Voigt.

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：コメニウス 光の道 教育学 17世紀 ルネサンス チェコ

1. 研究開始当初の背景

我が国におけるコメニウス研究は、藤田輝夫・井ノ口淳三・大田光一・相馬伸一、松岡弘、貴島正秋、佐藤令子らによって着実に進められてきた。彼らは、コメニウス研究会を設立し、その成果は1991年以降、『日本のコメニウス』という研究誌に毎年公表されている。コメニウスに関するこれだけの研究蓄積は、ドイツとチェコを除いて、世界に類を見ないものである。さらに、平成11～13年度においては、大田光一を研究代表者とした「コメニウスのパンソフィアの総合的研究」が科学研究費補助金(基盤研究(C)(1))を取得している。とはいえ、コメニウスの汎知学の成立にとって重要な著作、『光の道』に関する研究は、進められていなかった。

他方、加藤守通、北詰裕子、讃井大望、伊藤周史は、東北大学でコメニウス『光の道』の読書会を行い、その成果の一部は『日本のコメニウス』第16号(2006年)と第18号(2008年)に翻訳として掲載されていた。しかし、『光の道』をコメニウス思想全体の中に位置づける研究は、ここでもなされていなかった。

2. 研究の目的

本研究は、ヤン・アモス・コメニウス(1592 - 1670)中期の思想を代表する主著『光の道』(1641年執筆、1668年刊)に焦点を当て、コメニウスの教育思想の多義的・重層的な性格を明らかにすることを目指している。

コメニウスは、17世紀ヨーロッパに生まれ、教育の内容・方法・制度にわたる体系的な教育論を提起した。本研究は、コメニウスの教育思想の歴史的位置づけを再考するという全体構想において、特に哲学的基盤としての汎知学(Pansophia)が体系化されていった時期に書かれた『光の道』の意義を日本で初めて解明するものである。

『光の道』は、コメニウス晩年に献辞を付してロンドン王立協会に献呈されたが、その献辞には価値中立的な自然科学研究に傾斜していく王立協会への警告が記されている。『光の道』の研究は、コメニウス教育思想の再考とともに科学史研究等への貢献も期待できるものである。

本研究の目的は、大別すると以下の3点である。

(1)『光の道』の日本語による全訳を完成させることによって、今後の『光の道』研究の礎を築くこと。『光の道』に関しては、すでに英訳と独訳が存在するが、英訳の水準はきわめて低い。本書を原典であるラテン語から日本語に直接訳すことは、本書の理解にとってたいへん重要な作業である。

(2)『光の道』の中核にある「光の形而上学」を新プラトン主義やルネサンス思想との関連から明らかにし、コメニウスの教育思想を

西洋思想の広範な歴史的コンテキストにおいて解明すること。

(3)『光の道』をコメニウスの他の著作と関連付けることによって、コメニウスの教育思想の形成過程を解明すること。

(4)従来、個人的にしかなされてこなかった、海外のコメニウス研究者や教育学者との連携を深め、コメニウスを含む教育学研究の国際的な研究体制を模索すること。

3. 研究の方法

本研究の方法は以下の3点に集約される。

(1)定期的に研究会を開催することを通じて、『光の道』の翻訳を遂行し、同書の文献学的理解を推し進める。

(2)研究者相互の相互交流を通じて、コメニウスの他の著作、さらにはコメニウスに影響を与えたルネサンス哲学との関連の中で、『光の道』の歴史的意義を究明する。

(3)海外での調査や学会発表を通じて、海外のコメニウス研究者との研究交流を深める。

4. 研究成果

研究成果の大略は以下の通りである。

(1)教育思想史のみならず科学史における基本文献である『光の道』の本邦初訳を完成した。翻訳の作業は、当初4年で完了する計画であった。しかし、翻訳作業は予期していた以上に順調に進み、平成23年度には完了した。なお、翻訳の刊行に関しては、今後方途を探っていく。

(2)『光の道』に大きな影響を与えた新プラトン主義およびルネサンス思想を解明し、コメニウスの教育思想をより大きな哲学史的コンテキストの中で考察する道を開いた。このことは、とりわけ加藤による『新プラトン主義を学ぶ人のために』におけるルネサンス・新プラトン主義の研究、およびジョルダノ・ブルーノ著『傲れる野獣の追放』の翻訳の刊行を通じてなされた。ジョルダノ・ブルーノのこの著作は、ルネサンス新プラトン主義の倫理・教育思想を代表するものである。ブルーノはドイツでも活動した歴史があり、彼の弟子であり、コメニウスの師でもあるアルシュテットはブルーノ著作集を刊行している。

(3)コメニウス教育思想が学校教育を超えた生涯学習論へと展開していく過程を明らかにした。このことは、井ノ口、相馬、太田、北詰による一連の研究によって示された。とりわけ太田によるコメニウス晩年の書『パンパエディア』の全訳作業を通じて、『光の道』から『パンパエディア』へと至るコメニウス教育思想の拡張と変容の研究の道筋が立ったことは大きい。

(4)加藤、井ノ口、相馬は海外での国際学会で積極的に発表を行い、研究成果を公表した。さらに、加藤、井ノ口、相馬、大田は、ドイ

ツのドイツ・アウグスブルク大学に Uwe Voigt 教授を訪ね、『光の道』を中心にコメニウスに関する積極的な議論を交わした。Voigt 教授は『光の道』のドイツ語訳をなしとげた、当該分野におけるトップランナーである。また、日本での講演を補助することで、Klas Roth 教授(ストックホルム大学教育学部教授)や Duck-Joo Kwak 教授(ソウル国立大学教育学部教授)といった教育哲学者との交流を深めた。このことを通じて、コメニウス研究を世界的な場で推進すること、さらには世界の教育哲学・教育思想史の広い枠組みの中でコメニウス思想の位相を確定するという作業が端緒についた。

本研究は、その初年度において研究代表者の所属していた東北大学が東日本大震災の被害を受けたこと、さらに研究代表者が上智大学に第二年度初めに転勤したことを通じて、波乱の幕開けとなった。とはいえ、第二年度には『光の道』の翻訳を完成し、その後、このテーマとの関連から様々な角度でコメニウスについては近代初期の教育思想史研究を深めることができた。また、海外においても、積極的に研究成果を公表することができた。『光の道』の邦訳の出版社からの刊行、さらには一部未発表の研究成果の公表など宿題は若干残っているが、当面の課題には応えることができた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 16 件)

Kato, Morimichi, Significance of Rhetorical and Humanistic Education Today, *Asia Pacific Educational Review*, 査読有, vol. 15, no.1, 2014, 55-63

Kato, Morimichi, Humanistic Education in East Asia, *Zeitschrift fuer Paedagogik*, 査読有 vol. 60, no. 1, 2014, 96-108

Sohma, Shinichi, Mutual Education and Consultatio Catholica, 査読有 *Studia comeniana et historica*, vol. 87, 2013, 13-26

相馬伸一, コメニウスは大学の危機にどう向き合ったか、近代教育フォーラム、査読有、22 巻、2013、177-188

相馬伸一, パトチカ最後のコメニウス論をめぐって、広島修大論集、査読無、54 巻 1、2013、67-92

大田光一, コメニウスのパンパイディア再読(その 2) 会津大学文化研究センター研究年報、査読無、19 巻、2013、23-67

井ノ口淳三, 『世界図絵』第 3 章「天空」の挿絵についての覚書、追手門学院大学心理学部紀要、査読無、7 巻、2013、93 - 10

加藤守通, 教育哲学の課題、三田教育学部研究、査読有、20 巻、2012、1-7

相馬伸一, 「開かれた心」の思想史的素描、

広島修大論集、査読無、53 巻、2012 年、63-79

Kato, Morimichi, Philosophy of Education Today, *The Korean Journal of Philosophy of Education*, 査読有, vol.33, 2011, 147-160

相馬伸一, コメニウス思想の再読可能性、近代教育フォーラム、査読有、20 巻、2011、97 - 111

井ノ口淳三, コメニウスと見る世界、教育哲学研究、査読有、103 巻、2011、78 - 84

井ノ口淳三, 『世界図絵』1883 年版の特徴について、追手門学院大学心理学部紀要、査読無、第 5 巻、2011、75 - 89

加藤守通, 教育における二つの近代、教育哲学研究、査読有、100 号記念号、2010、297-311

Kato, Morimichi, Multiculturalism in Postmodern Age, Sungkyul University: *Multiculture and Peace*, 査読有, 2010, 129-149

相馬伸一, 教育的 知識人たちの表象、近代教育フォーラム、査読有、第 19 号、2010、127 - 135

[学会発表](計 14 件)

Kato, Morimichi, Chuang Tzu's Understanding of Master Craftsmanship and its Educational Significance, Philosophy of Education Society of Australasia, 2013 年 12 月 8 日、メルボルン大学

井ノ口淳三, 大学における教養養育とコメニウスの Pansophia の理念、教育史学会、2013 年 10 月 13 日、福岡大学

Sohma, Shinichi, Power and Education according to J. A. Comenius, 35th International Standing Conference for the History of Education, 2013 年 8 月 21 日 ~ 24 日、ラトヴィア大学

Inokuchi, Junzo, Were the textbooks of A.J. Comenius interfered by the political power?, 35th International Standing Conference for the History of Education, 2013 年 8 月 21 日 ~ 24 日、ラトヴィア大学

Inokuchi, Junzo, On the image of teacher in the exhibition at school museum, 15th International Symposium on School Life and School History, 2013 年 6 月 23 日 ~ 27 日、スロヴェニア国立学校博物館

Kato, Morimichi, Significance of the Rhetorical and Humanistic Tradition for Education Today, The 13th International Conference on Education Research, 2012 年 10 月 17 日 ~ 19 日、ソウル国立大学

Kato, Morimichi, The Humanistic Education in East Asia: With Special Reference to Ogyu Sorai, The 13th International Conference on Education Research, 2012年10月17日~19日、ソウル国立大学

加藤守通、レオナルド・ブルーニによるキケロの再発見、早稲田大学ヨーロッパ中世・ルネサンス研究所第3回シンポジウム、2012年9月29日、早稲田大学

Sohma, Shinichi, Various Aspects concerning Civility and Education in Seventeenth Century Europe, International Network of Philosophers of Education, 2012年8月15日~18日、アディス・アババ大学

Inokuchi, Junzo, On the internationalization in Education in case of the textbook for children, 34th International Standing Conference for the History of Education, 2012年6月30日、ジュネーブ大学

Kato, Morimichi, Environment and Education, Philosophy of Education Society of Australasia, 2011年12月3日、オークランド工科大学

Kato, Morimichi, Giordano Bruno's Philosophy of Shadows in *De umbrarum idearum*, 2010年9月30日、ロシア科学アカデミー(モスクワ)

Kato, Morimichi, Environment and Education: Toward Alternative Ontology of Nature, 2010年6月12日、高麗大学(ソウル)

Kato, Morimichi; Standish, Paul; Burbules, Nicholas; Tschong, Youngkun, Philosophy of Education: It's Past, Present, and Future, Seoul International Conference on Philosophy of Education, 2010年6月11日、高麗大学(ソウル)

〔図書〕(計9件)

水地宗明、加藤守通(他27名)、世界思潮社、新プラトン主義を学ぶ人のために、2014、393(337-353)

根占献一・伊藤博明・伊藤和行・加藤守通、三元社、イタリア・ルネサンスの靈魂論[新装版]、2013、239(181-237)

加藤守通(訳)、東信堂、ジョルダナーノ・ブルーノ著、慥れる野獣の追放、2013、293

田中耕治、井ノ口淳三(編)(他7名)、八千代出版、学力を育てる教育学、2013、228(187-203)

森田伸子、北詰裕子(他5名)、勁草書房、言語と教育をめぐる思想史、2013、243(51-95)

森田尚人、森田伸子、北詰裕子(他14名)、勁草書房、教育思想史で読む現代教育、

2013、401(176-201)

北詰裕子、コメニウスの言語観と世界観に関する教育思想史研究、日本女子大学博士論文、2012年、398

孫崎享・加藤守通(他14名)、ナカニシヤ出版、総合的戦略論ハンドブック、2012、195(37-46)

和田修二、井ノ口淳三(他16名)、ランゲフェルト教育学との対話、玉川大学出版部、2011、392(270-283)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 守通(Kato, Morimichi)
上智大学・総合人間科学部・教授
研究者番号：40214407

(2) 研究分担者

井ノ口 淳三(Inokuchi, Junzo)
追手門学院大学・国際学部・教授
研究者番号：00106014

相馬 伸一(Sohma, Shinichi)
広島修道大学・人文学部・教授
研究者番号：90268657

大田 光一(Ota, Kouichi)
会津大学・コンピュータ理工学部・教授
研究者番号：40136362

下司 裕子(北詰 裕子)(Geshi, Yuko)
(Kitazume, Yuko)
東京学芸大学・教育学部・講師
研究者番号：30580336